

新年のごあいさつ

高浜市長 吉岡 初浩

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

全国的な人口減少や少子高齢化の進行、デジタル技術の急速な変化、風水害をはじめとした自然災害の発生などは、本市にとっても喫緊の課題であります。

本市では、地域共生社会の実現を図るため、昨年4月に「共生推進グループ」を新設し、だれもが気軽に訪れることができる多世代型の居場所“まぜこぜの居場所”づくりを行っております。

また、「こども家庭センター」を開設し、こども、妊産婦、子育て中の家庭の方が気軽に相談できる総合窓口を整備いたしました。新年度には、高校生世代までの入院費無料化にも取り組んでまいります。

10月には、AI技術を活用した乗り合い型AIオンデマンドバス「チョイソコたかはま」の実証運行がスタートいたしました。

また、水道・下水道の使用料や住民票、所得証明書などの各種手数料の支払いにキャッシュレス決済が可能となり、今後はオンラインで公共施設の予約状況を確認し、予約ができるシステムを導入してまいります。

本年も、第7次高浜市総合計画の将来都市像である「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」の実現に向け、全庁一丸となって邁進してまいりますので、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

おわりに、令和7年の新春の門出にあたり、市民の皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。



高浜市議会議長 杉浦 康憲

新年あけましておめでとうございます。令和7年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。また、日ごろより市政並びに市議会に対しまして、ご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年1月1日に発生しました能登半島を震源とするM7.6の能登半島地震はまだ皆さまの記憶に新しいと思います。このような災害が改めて私たちに教えてくれるのは、日ごろからの「防災意識」と「地域の絆」の重要性ではないでしょうか。大規模災害時には、一人ひとりがお互いを思いやり、助け合うことが不可欠です。本市でも、こうした絆をさらに深めるために町内会やまちづくり協議会などを通じて、市民がともに支える活動が行なわれていることは、まさに第7次高浜市総合計画のキャッチフレーズ「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」の考えかと思います。皆さまが描くそれぞれの「まち」に想いをはせ、その実現のために力を合わせ、ともに歩んで行きましょう。

最後になりますが、この1年が健やかで幸せな年でありますよう、心からご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

